E2TS/E2T

本科１期４月度

解答

Ｚ会東大進学教室

高２難関大英語Ｓ

高２難関大英語

1章　文型 1

問題

【1】

ポイント

５文型の基礎を再度確認してみよう。

SVOC において，名詞〔名詞句・名詞節〕は S，O，C になり，（叙述用法の）形容詞は補語（C）になる。前置詞句などの副詞句や副詞節などは S，O，C にならず M〔modifier：修飾語〕になる。さらに，語順が入れ替わっている場合にも注意すべきである。

解答・解説

a　SVOO「私は彼女に良いガイドブックを見つけた。」
○第４文型〔授与動詞〕：SVO_1O_2「S が O_1 に O_2 を V する」と訳す形が多い。

b　SVO「彼はドアノブを回した。」
○第３文型〔完全他動詞〕：SVO「S が O を V する」となる形が一般的だが，必ずしも「O を」とならない場合もあるので注意する。

c　SV（M）「地球は太陽の周りを回転している。」
○第１文型〔完全自動詞〕：SV「S が V する」であるが，単に SV だけの英文は少なく，場所や時間の副詞句（前置詞句を含む）を伴うことが多い。

d　SVC「私の髪が白くなった。」
○第２文型〔不完全自動詞〕：「S が C になる」「S は C である」などの意味になり，S ＝ C もしくは S is C. が成立する。

e　SVOC「その熱は芝生を茶色くした。」
○第５文型〔不完全他動詞〕：「O を C だと思う」「O を C にする」などの意味になり，O ＝ C もしくは O is C. が成立することが多い。

（1）　**e**

SVCO「彼はその職を辞するという決断を公表した。」

○public は「公衆の；公開の」という意味の形容詞であり補語（C）になる。一般に ‘make O C’ などの第５文型において O が長い場合はしばしば後置されて ‘make C O’ の語順になる。本問でも，‘make O public’ で「O を公表する」という意味になるが，O（＝ his decision to quit his post）が後置されて ‘make public O’ となっている。

（2）　**e**

SVOC「私の夫はプロポーズした時，私の心のベルを初めて鳴らしてくれた。」

○この make は「使役動詞」と呼ばれ，SVOC の C に動詞の原形が来て「O に～させる」となる。つまり，‘O ＝ my heart’s bell’, ‘C ＝ ring’ となって「私の心のベルを鳴らす」となる。ring は「鳴る；響く」という意味の自動詞。

（3） **b**

SVO（M）「彼女は婚約指輪を金庫の中に取っておいた。」

○ ‘keep O’ で「O を保つ〔保管する〕」となっている。ring は「指輪」という意味の名詞。in the safe という前置詞句は副詞句であり文の要素（S, V, O, C）にならず, M〔modifier：修飾語〕である。

（4） **b**

OSV（OvSV ← v は助動詞を表す）「彼女は会議で一言もしゃべらなかった。」

○ She did not say a word at the meeting. の目的語が文頭に置かれた形。

○ 一般に SVO の O〔目的語〕を強調などの理由で文頭に置くと，OSV という形になるが，特に否定の目的語の場合はその後が倒置になることが多い。

Ex. This sort of thing I cannot say.（こんなこと私には言えやしません。）

Not a single mistake did they find in my report.

（私のレポートに彼らは１つの間違いも見つけませんでした。）

（5） **d**

SVC「彼の理論は大変役立つことがわかった。」

○ ‘of ＋ 抽象名詞 ＝ 形容詞’ という事項は有名であろう。

e.g. of importance ＝ important

○ 本文でも ‘of great use ＝ very useful’ となり，補語（C）になっている。prove は他動詞だと SVO となり「O を証明する」という意味になるが，自動詞で SVC となると「S は C だとわかる」という意味で使われる。

（6） **c**

MVS「丘の片側に深い森が茂っていた。」

○ On one side of the hill が場所を表す副詞句〔前置詞句〕となり前置され，MVS の形になっている。主語はあくまでも名詞〔名詞句・名詞節〕に限られ，前置詞が先行する名詞〔前置詞句〕と区別すべきである。grow は自動詞で「育つ」という意味。

（7） **d**

C VS「けれどもさらに大切なのは，あなたの考えの内容です。」

○ important は形容詞であるから補語であり，C になる。一般に補語が前置される場合には，CVS となることが多い。

（8） **b**

OSV「インターネットが私たちをどこに連れていくのか，わかりません。」

<u>Where the Internet will take us</u>, <u>we</u> <u>cannot tell</u>.

O　　S　　V

○ Where S’V’O’ が名詞節を作り，tell の目的語となる。全体としては We cannot tell where the Internet will take us. の目的語が前置され OSV となった形である。

（9） **b**

SVMO「私たちは馴染み深いものを自然だとみなすことがよくある。」

○ regard A as B の A の部分が長いために後置され，regard as B A となっている。

A ＝ something with which we are familiar ／ B ＝ natural

○ with which はいわゆる‘前置詞＋関係代名詞’であり，something という先行詞を修飾する形容詞節を導いている。

(10)　**e**

SVOC「私は黄色いくちばしの黒い鳥が巣から飛び立つのを見た。」

○ see, hear, feel などは一般に知覚動詞と呼ばれ，SVOC の C の部分に原型不定詞や分詞を取る。

Ex. I *heard* someone call my name.（私は誰かが自分の名前を呼ぶのを聞いた。）

○本問でも，‘O ＝ the black birds with yellow beaks’, ‘C ＝ flying out of their nest’となっている。beak「くちばし」nest「巣」

【2】

ポイント

第２文型 SVC は，一般に S ＝ C（S is C）が成立すると言われる。

また，第２文型を取る動詞は，be 動詞を始め，限られており，become ／ lie ／ sit ／ keep ／ remain ／ stay ／ appear ／ look ／ seem ／ prove ／ get ／ turn ／ go ／ feel ／ smell ／ taste などがある。ここでは，様々な第２文型の形を見ていこう。

解答

g，**h**，**k**

解説

a「可哀想にその犬は大きな木の下で冷たく横たわっていた。」

○ lie は「横たわる」という意味の自動詞。lie － lay － lain － lying と活用する。また dead は「死んだ状態の」という意味の形容詞。The dog（S）lay（V）dead（C）となる。ちなみに他動詞「～を横たえる」の lay は lay － laid － laid － laying となる。

Ex. She *laid* her bag on the table.〔SVO〕（彼女はバッグを机の上に置いた。）

b「このチケットはまだ有効だ。」

○ hold good「有効である」

○ S is C（The ticket is good）が成立していることに注意。

c「それよりも重要なのは彼が私たちにしたこの質問だ。」

○補語が前置されて CVS の形となっている。

<u>This question which he asked us</u>　<u>was</u>　<u>more important than that</u>.
S　V　C

と書き換えてみるとわかりやすい。このように SVC の C が前置されると S と V が倒置になることが多い（つまり CVS となりやすい）。

d「経済危機のためその会社は倒産した。」

○ the company ＝ bankrupt となっている。go bankrupt「破産する」は覚えておこう。

e「彼の言い訳はだいぶむなしく聞こえる。」

○ hollow は「空虚な・うわべだけの」という意味の形容詞。his excuse（S）＝ very hollow（C）が成立している。S sounds C. で「S は C のように聞こえる」という意味になる。

f「彼らは眠っている赤ん坊を起こさないよう黙っていた。」

○ because of A は「A のために」という理由を表す前置詞句。they（S）= quiet（C）が成立している。keep C で「C の状態のままである（C の状態を保つ）」となる。

g「彼の新著は大変面白く読めます。」〔SV（M）〕

○ read には他動詞の「読む」以外にも自動詞として「読める」という意味があることに注意。interestingly は副詞であり SVC にはならない。

Ex. This sentence *reads* two ways.（この文は２通りに読める。）

h「このバラの匂いを嗅いでください。」

○ smell という動詞で始まる命令文である。命令文の主語は You であるから，you（S）≠ this rose（O）となっている。この smell は「（匂い）を嗅ぐ」という他動詞である。なお，smell には第２文型の使い方もあることには注意。

Ex. This rose *smells* sweet.〔SVC〕（このバラは甘い匂いがする。）

i「スーザンはピエロのように陽気にふるまった。」

○ make には補語を伴って「～になる；～のように振舞う」という意味の自動詞用法がある。この場合は SVC となることに注意。ただし補語は名詞および merry や bold など一部の形容詞に限られ，極めて成句的な表現である。

Ex. She will *make* a good wife.〔SVC〕（彼女は良い妻になるだろう。）

j「彼の父は突然病気になった。」

○ his father（S）= ill（C）となる。fall ill「病気になる」

k「このドレス私に似合う？」

○ this dress（S）≠ me（O）であることに注意。become O で「O に似合う = suit O」という意味になる。

【3】

ポイント

第４文型を第３文型に変える場合，たとえば He gave me the book. → He gave the book to me. と前置詞 to を用いたり，He bought me the book. → He gave the book for me. と前置詞 for を用いたりするものがある。どんな動詞にどんな前置詞が用いられるのかを確認しよう。

解答・解説

（1） to「多くはあなたのおかげです。」

○ owe A B = owe B to A「B を A のおかげとする」

（2） for「彼は彼女にダイヤの指輪を買ってあげた。」

○ buy，make，get などは第３文型にすると ‘to’ ではなく ‘for’ を用いる。

（3） to「昨日私は子供たちに面白い話をしてあげた。」

（4） of「お願いがあるのですが。」

○ ask の場合には，ask A B = ask B of A となることは覚えておきたい事項の１つ。

（5） for「彼女は息子に模型の飛行機を作ってあげた。」

（6） to「彼は彼女に長い手紙を書いた。」

（7） for「あなたにカバンを注文しましょうか。」

（8） on「彼らは私にいたずらをした。」

○ play A a trick = play a trick on A「A にいたずらをする」

on を用いるのはこの形のみと言われている。

【4】

A.

全訳

現在出版されているあらゆる語学書の中で，真の問題点，つまりある文章の文頭で“hopefully”を用いてもいいかどうかという問題ではなく，私たちの言語に何らかの生命，つまり，趣きとか特徴が残っているかどうかという問題を直視している本はきわめて少ないように，私には思える。

B.

全訳

都市が好きな人ならまた，さまざまな種類の人々を大勢受け入れることは，時として大都市にいろいろな問題を生じさせるかもしれないが，しかし，変わった習慣とやり方を持ったこれらの新しい人々は，都市を面白く，独特で，刺激的なものにするものであると付け加えるであろう。

【5】

解答

（1） ⓐ **c** ⓑ **d** ⓒ **d**

（2）「**全訳**」の下線部①～④参照。

（3） **d**

解説

（1）

ⓐ refer *to* A as B「AをBと呼ぶ」

ⓑ the skills を指す。繰り返しを避けるために用いられる指示代名詞 that の用法。複数名詞を受けるので those を用いる。

ⓒ be based *on*〔upon〕～「～に基づいている」

（2）

①◇ traditionally「伝統的に」

◇ look on〔upon〕A as B「AをBと見なす」

= regard A as B

◇ a way to *do*「…する１つの方法」

◇ how to do something「いかに何かをすべきか；何かの仕方」

○ learn の目的語になる名詞句

②◇ They feel that ～「彼ら（Americans）は～ということを感じる」

○ that ～ は feel の目的語になる名詞節

◇ through these jobs「これらの仕事を通して」が主語に先行した形。
◇ gain「～を得る；身につける」
◇ experience in working for and with other people「他の人々のために，そして他の人々とともに働く経験」
○ experience in …ing「…する経験」
○ other people は for と with の共通の目的語であることに注意する。
○目的・目標を表す for「～のために」，随伴・同伴を表す with「～とともに」
◇ learn enough about business or trades

[*to* wisely choose their life's work,
[(and of course) *to* make their own money

「一生の仕事を賢明に選び，そしてもちろん自分自身で金を稼ぐことができるくらい，職業や商売について十分な事を学ぶ《直訳》」
○ enough to *do*「…するほど十分なだけのもの」
○名詞用法の enough「十分な量〔数〕」
○ 2つの to 不定詞に続くことに注意。
○ wisely「賢明に」
◇ It is hoped that ～「～ということが望まれる」
○ it は that 節を受ける形式主語
◇ by earning their own money「自分自身の金を稼ぐことによって」
◇ learn [the value of money
[(and) how to spend it wisely
○ learn は上のように両方の語句を目的語にとっている。
○ how to *do*「…の仕方；いかに…するか」
③◇ a third to a half of ～「～の3分の1から2分の1」
○ a〔one〕third「3分の1」
○ a〔one〕half「2分の1」
下記の《参考》分数の表し方参照。
○範囲を表す to「～まで」
cf. from A to B「AからBまで」
◇ income「収入」
○ income for that year「年収」
④◇ therefore「そういうわけで」
◇ as ～ as possible = as ～ as one can「できるだけ～」
◇ a week「一週間につき」
○ a = per
○ ℓ. 15 a year の a と同用法
◇ in order to *do*「…するために〔目的〕」
◇ help pay for ～「～の支払いを助ける」
○ help (to) *do*「…するのを助ける」

《参考》分数の表し方
（1）分子を基数詞（one, two, three, etc.），分母を序数詞（third, fourth, fifth, etc.）で表す。
（2）分子が2以上の時は分母に複数の -s をつける。
○ 3分の2：two thirds
（3）2分の1は a〔one〕half，4分の1は quarter〔one fourth〕で表す。
（4）数字が大きい場合は，分子を読み，over または upon を入れて分母を基数詞でそのまま読む。
○ 256分の38 = thirty-eight over〔upon〕two hundred（and）fifty-six

（3）

a 本文 ℓ.6～7の内容に反する。

b 学生が出来る限りアルバイトをするよう勧められる本質的な理由は「学費が高い」ためではなく「経験を身につけ自分の金を稼ぐことができる」からである。

c 本文に記述なし。

d 本文 ℓ.6～7の内容に一致する。

全訳

①アメリカ人は伝統的に，教育を何かの仕方を学ぶ1つの方法と見なしてきた。履修課程には常に実用的な科目が含まれてきたし，またアメリカ人は職場も一種の学校とみなしてきた。彼らは仕事の世界を「人生勉強の場」と呼ぶことが多い。つまり人は経験から学ぶということを彼らは意味しているのである。

たとえ，学校で教えられる技能が仕事の世界で必要とされる技能を補足するものではあっても，両者は違う。アメリカ人はこれを悟っているので，可能な時はいつでもアルバイトをするように若者に奨励する。②これらの仕事を通して，学生は他の人々のために，また他の人々と共に働く経験を身につけ，一生の仕事を賢明に選べるよう，そしてもちろん，自分自身で金を稼ぐことができるくらいに，職業や商売について学ぶだろうと，彼らは感じているのだ。自分で金を稼ぐことにより，学生は金の価値とその賢い使い方を学ぶだろうと期待されているのである。

彼らが学生時代に働くまた別の現実的な理由は，大学教育は費用がかかるという単純な事実に基づいている。私立校よりも安い公立校でさえ1年に1万ドルもの費用を学生やその家族が払うこともある。これは年間の③家族の収入の3分の1から2分の1にもあたるだろう。④そういうわけで，学費の支払いを助けるために週にできるだけ多くの時間をアルバイトに費やし，夏休みにはフルタイムの仕事をしなければならない学生もいるのである。

注

ℓ.2 ◇Practical courses have always had their place in the curriculum
「実用的な課程は常に履修課程にその場所を持っていた」《直訳》
→「履修課程には常に実用的な科目が含まれてきた」

ℓ.4 ◇By this they mean that they learn by experience「これによって，人は経験から学ぶということを彼らは意味している」

○ By this が主語に先行した形。
○ this は前文の内容を指す。
○ mean A by B「BによってAを意味する」
○ They mean〔that they learn by experience〕by this.
○ A = that they learn by experience, B = this

ℓ.6 ◇ even though ～「たとえ～にしても」《譲歩》
= even if
◇ the skills taught in school「学校で教えられる技能」
○ taught は skills を修飾する過去分詞。
= the skills which are taught in school
◇ those needed in the working world「仕事の世界で必要とされる技能」
○ those は the skills を指す。
○ needed は those を修飾する過去分詞。
= those which are needed

ℓ.7 ◇ realize「①～を悟る ②～を実現する」
◇ this は前文の内容を受ける。

ℓ.8 ◇ encourage O to *do*「Oを…するように励ます〔けしかける〕」
◇ whenever possible「可能な時にはいつでも」

ℓ.13 ◇ Another practical reason for students working during their school years「学生が在学中に働くもう１つの現実的な理由」
○ students は working の意味上の主語で working は for の目的語になる動名詞。

ℓ.14 ◇ the simple fact that ～「～という単純な事実」
○ that ～ は fact と同格の名詞節
◇ public school「《米》公立学校《英》パブリック・スクール（上流子弟の全寮制の私立中等学校）」
◇ less expensive = cheaper「より安い」

ℓ.15 ◇ cost 人 金額「人に～だけの金額がかかる」
◇ up to ～「～に至るまで」
◇ a year「１年につき」
○ a = per
◇ as much as ～「①～と同量の；同額の ②～ほども多く」

【6】

ポイント

（1）～（4）において複数の文型で用いられる動詞を通じて５文型の理解を深めよう。また，（5）～（7）でやや長い英文を正確に分析できる視点を養おう。

解答・解説

（1） grow

(a) Ⅰ〔SV（M）〕「ビジネスは着実に伸びている。」

○ steadily は副詞であり文の要素（S，O，C）にならないことに注意。

(b) Ⅱ〔SVC〕「日本の人口は高齢化している。」

○ older は形容詞（の比較級）。Japan's population（S）= older（C）が成立している。

(c) Ⅲ〔SVO〕「その農民らは米を栽培している。」

○ grow は他動詞で「～を栽培する」の意味。the farmers（S）≠ rice（O）であることにも注意。

（2） leave

(a) Ⅰ〔SV（M）〕「彼はニューヨークへ向けて出発した。」

○ for the Big Apple は前置詞句を作っているため副詞句（つまり S，O，C にはならない）と考える。Big Apple はニューヨークの愛称。

○ leave for A「Aに向けて出発する」

(b) Ⅲ〔SVO〕「彼はニューヨークを去った。」

○ leave は他動詞で「～を去る」という意味。

(c) Ⅴ〔(S) VOC〕「私を１人にしてください。」

○ leave O C「O を C の状態にする」O（me）= C（alone）となっている。命令文のため主語の you は省略されている。

(d) Ⅳ〔(S) VOO〕「私にお菓子を少し残しておいてください。」

○ me（O）≠ some cake（O）である。

○ leave O_1 O_2「O_1 に O_2 を残しておく」

（3） smell

(a) Ⅰ〔SV（M）〕「その犬は食べ物の臭いを嗅ぎわけた。」

○ at the food（前置詞句）は文の要素（S，O，C）にはならない。この smell は「匂いを嗅ぐ」という意味の自動詞。

○ smell at A「Aの匂いを嗅ぐ」

(b) Ⅲ〔SVO〕「その犬は花の匂いを嗅いでいる。」

○（a）と異なり，smell は「(匂い）を嗅ぐ」という意味の他動詞。なお，進行形の be 動詞を V，…ing を C と考えて SVC と解釈する説もあるがここでは smell という動詞に着目した分類をしている。

(c) Ⅰ〔SV〕「彼らの金儲けのやり方には胡散臭い匂いがする。」

○この smell は「匂いがする；臭う」という意味の自動詞である。

(d) Ⅱ〔SVC〕「この花は大変甘い匂いがする。」

○ sweet は形容詞で補語となっている。

（4） find

(a) Ⅳ〔SVOO〕「私は彼女に良い職を見つけてやった。」

○ her（O）≠ a good job（O）である。

○ find O_1 O_2「O_1 に O_2 を見つけてあげる」

(b) V〔SVOC〕「私は彼女が良い女の子であるとわかった。」

○ her（O）= a good girl（C）である。

○ find O C「O を C だとわかる」

（5） Ⅲ〔SVO〕「移植を待つ人の数は，手に入る臓器の数をはるかに上回っている。」

○ awaiting transplants が people を修飾している。主語が the number で動詞が exceeds であることに気が付けばよい。

○ S exceeds O.「S が O を上回る。」

（6） V〔SVOC〕「私たちは近くの村から来た若者にその車を運転してもらった。」

○ had は使役動詞である。have A *do*「A に…してもらう」

○ 'We（S）had（V）a young man（O）drive the vehicle（C）.' と考えればよい。

（7） Ⅳ〔SVOO〕「それらの施設は，子供たちにより広い遊び場と，共に遊べるおもちゃや友達を提供するだろう。」

○ offer O_1 O_2「O_1 に O_2 を提供する」

【7】

ポイント

一般的に第３文型 SVO は「S は O を…する」と訳すと言われるが，目的語は常に「～を」と訳せるとは限らない。英作文などにおいて，この場合に無用な前置詞を入れてしまいがちであるので注意しなければならない。また「～を」と訳せるからといって他動詞を用いるとも限らない。本問題に出てくるような表現はまるごと覚えてしまうのがオススメである。

解答

e，**f**，**g**

解説

a marry は「～と結婚する」という意味の場合は他動詞であって with は不要。

b answer は「～に答える」という意味の他動詞であり to は不要。

c resemble は「～と似ている」という意味の他動詞であり with は不要。

d obey は「～に従う」という意味の他動詞であり to は不要。

e call on A「A（人）を訪ねる」という意味になる。なお，場所の場合には call at 場所となる。

f rely on A「A を頼る；当てにする」 *cf.* count on A / fall back on A

g enter は「具体的な場所に入る」という場合には他動詞であるが，「～界に入る；事業を始める；交渉を結ぶ」などの場合には into を伴うので注意。

Ex. He *entered* the room.

He *entered into* business.

h climb は「～に登る」という意味の他動詞であり to は不要。

i await は他動詞で for を伴わない。もちろん waited なら自動詞であるから for が必要になる。

【8】

ポイント

日本語では「4月から始まる」とも「4月に始まる」とも言うが，英語ではこういう時は，from を用いない。つまり，from =「から」と短絡的に処理してはならないということになる。では，どういう前置詞を使うか研究してみようというのが，（1）（2）のテーマである。

解答

（1） “When does your school begin?”
“Our school begins in April.”

（2） “Which problem shall we begin with?”
“Let’s begin with this. It’s easy.”

（3） What’s the date today?

（4） Can you direct me to the rest room?

（5） Say hi to Tom.

（6） Talk to you later.

解説

（1）「～から始まる」は時間の単位によって，at か on か in のどれかを用いる。

(a)「時間」の場合 → at

e.g. begin at eight o’clock

(b)「曜・日」の場合 → on

e.g. begin on Tuesday

(c)「年・月」の場合 → in

e.g. begin in February

本問は（c）のパターン。

（2）「（ある事柄）から手をつけ始める」という場合は，begin with ～ の形をとる。本問はこのパターンである。

e.g. begin with chapter two（第2章から始める）
begin with lesson five（第5課から始める）

ただし，「～ページから始める」という時は，to または at を用いて，Let’s begin to〔at〕page five. とする。at を用いるのは主に，イギリス英語の用法である。また，page と無冠詞で用いている点に注意。「～ページをあけなさい」という時も，同様の前置詞を用いて，Open your books to〔at〕page twenty. とする。「～から始まる」を begin with ～ というのに対して「～で終わる」もやはり with を用いて end with ～ ということも覚えておこう。

Ex. The story ends with the familiar “they lived happily even after.”
（その物語は例の「めでたしめでたし」で結んでいる。）

（3）「今日は何日ですか。」に対する決まり文句には，

(a) What’s the date today?

(b) What’s the date of today?

(c) What’s today’s date?

(d) What date of the month is it today?

などがある。

(a) が最も頻度が高いが，(b)，(c)，(d) も使われるので，すべて覚えておくこと。

ところで，「今日は何曜日ですか。」に対応する英語は

What day of the week is it today? である。

なお，of the week を省略して，What day is it today? としてもよいが，「何日ですか」の意味にとらえられることもあるので注意。

（4）「direct を用いて」という条件があるので，まず direct の文型を確認する。

direct は，A to B で「AをBに導く；AにBに行く道を教える」を表す。

したがって，

Can Could	you direct me to ～？	

という文型を用いればよい。

この文脈での「お手洗い」に対応する語は，個人の家にあるトイレなら bathroom，公共の場所のトイレなら rest room とする。toilet は日本語でいう「便所」にあたるのでここでは不適。

したがって，

Can Could	you direct me to the	rest room bathroom	?

となる。

この direct は入試に頻出するので例文を補っておこう。

Ex. When I reached the campus, I <u>was directed to</u> a huge lecture hall.

（私がそのキャンパスに着くと，大きな講堂に案内された。）

The accident <u>directed</u> public attention to the danger.

（その事故は一般大衆の関心をその危険に向けた。）

（5）「トムによろしく言って下さい」を４語で言えば

Say	hi hello	to Tom.

となる。

４語という条件を無視して，より丁寧な言い方にすれば，

Please say	hi hello	to Tom.

となる。

他には

ⓐ Please give my (best)	regards wishes	to Tom.

ⓑ Please remember me to Tom.

などがあるが，ⓐでは regards は面識のある人に，wishes は面識のない人に用いる。また，ⓑはイギリスでは口語体であるが，アメリカでは文語体である。

（6）「また後で」を See you later. と言うのは知っていると思うが，talk を用いて，と言

うと難しいかもしれない。talk を用いて表せば

Talk to you later.

で，これは I'll talk to you later. の I'll が省略された形で電話を切る時などに用いる。talk は see と違って自動詞なので，前置詞 to を忘れてはならない。

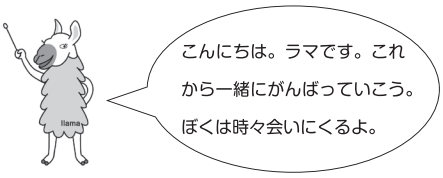
Ex. "I'll call you tonight." "All right. Talk to you later."

（今晩電話します。）（わかりました。じゃあまた後で。）

今日の一言

What the heart thinks, the mouth speaks.

「思いは口に出るものだ。」



What the heart thinks が目的語で前置され，OSV の形になっている。

考えていることをつい口に滑らせてしまうことは誰だってあるだろう。これを英語で Freudian slip（フロイト的失言）と言う．Freud とは他ならぬ，精神分析で有名な Sigmund Freud のことである。